

厚生労働科学研究費補助金
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)
分担研究報告書

Global Health Diplomacy Workshop

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	坂元 晴香	東京女子医科大学 国際環境熱帯医学講座 准教授
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図ることを目的とした。

令和4年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、国内外の該当領域の専門家を招聘し、対面を基本とするハイブリッド形式で講義と演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の概要や外交技術に関する講義に加えて、演習テーマに関連した医薬品アクセスと価格透明性についての講義を加え、講義と演習が有機的に連動するようなプログラム構成とした。WHO執行理事会での介入を模した演習では、今年度新たに作成した「医薬品アクセスと価格の透明性」をテーマとする架空シナリオに基づき、会議文書の読解、対処方針の検討、加盟国との交渉と会議での発言の演習を行い、専門家からのフィードバックを得た。参加者は、行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者14名が集まった。加えて、医学部、公衆衛生大学院の学生や教員など13名がオブザーバー参加した。

ワークショップ終了後のアンケートからは、本ワークショップを通して、国際会議における効果的な介入について参加者自身の学びや気づきを促進しえたことが確認された。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して実施していく予定である。

A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張し合意形成を行うためには、そのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題および日本を含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入して、日本の立場を主張し意思決定を行うための手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的とした。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う地政学的変化の中で、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、今年度は新型コロナウイルス感染症でも重要課題となった医薬品のアクセスと価格の透明性をテーマとした演習を行うことで、今日的なグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図った。

B. 研究方法

1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健分野の課題における議論に戦略的に介入

し、日本の立場を効果的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催した。

対象は行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが、国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者を対象とする。また関連領域の大学院生、大学生および大学教員を含む20～30名を上限とするオブザーバーも聴講者として参加した。

ワークショップは以下7点を目標に、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いて、パブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成する。

- (1) 国際機関（国連・国連の専門機関・パートナーシップ）におけるガバナンスの意味を理解する。
- (2) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (3) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (4) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる手法を習得する。
- (6) 国際益と国益を調和させる姿勢を涵養する。
- (7) 国際会議の暗黙知を共有する。

2. ワークショップの評価

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得る。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図った。

(倫理面への配慮)

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外である。

C. 研究結果

令和4年12月17日～18日の二日間にわたり、講義と演習を交えたワークショップを開催した。なお、今年度の講義は、これまで行ってきたグローバルヘルス外交の概論や実践に関する講義に加えて、午後に行われた演習のテーマに関連した講義を行い、講義と演習が有機的につながるよう工夫をした。また、講義、演習ともにオンライン配信をし、オブザーバーや海外の講師陣も参加できるようにした（プログラム詳細は表1「Global Health Diplomacy Workshop (2022): Course Schedule Overview」を参照）。参加者は14名、オブザーバーは13名であった。

対面式演習では、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、本ロールプレイ演習のために用意したWHO執行理事会における架空の議題をテーマに模擬WHO執行理事会方式で介入の演習を実施した。具体的には、今年度は現代のグローバルヘルス外交において重要課題の一つである「医薬品のアクセス

と価格の透明性」をテーマにした架空のシナリオを作成し、参加者は、数名ずつのチームに分かれ各国の代表団（米国、スウェーデン、ザンビア、インドの4か国）として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。また、国際経験豊富なファシリテーター4名が、各国の演習において随時きめ細やかなアドバイスを提供した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査（表2～3）では、大半の参加者から「難しかった」～「普通」と回答が得られた。各セッションにおいて、初日と比べて二日目では「とても難しい」と回答したものが減り課題理解が進んだことが確認された。また参加度（表4）についても、多くの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。また本ワークショップから得られた、国際会議で効果的に介入するために必要なことに関する気づきについては、「事前の準備」「表現の仕方など専門領域に関する語学力」など専門的、実務的な内容に関する指摘が多く見られた。加えて、「(他国との) 関係構築力」「交渉力」「判断力」「論理性」など、より包括的なスキルに関するコメントも挙げられた（表5）。

改善点（表6）としては、事前準備や演習時間において時間的制約が大きいという指摘があった。また、参加者同士のネットワーキングの時間を設けてほしいという希望があったため、今後検討していく予定である。

ワークショップ全体に関するコメント（表7）からは、多くの学びがあったというコメントとともに、グローバルヘルス外交に対するモチベーションが上がったとのコ

メントも複数挙げられ、本ワークショップが参加者のグローバルヘルス外交に対するモチベーション向上にも有用であったことが示された。

D. 考察

今年度は、対面講義・演習を原則としながらも、遠方の講師やオブザーバーも参加できるというオンラインのメリットも活かしたハイブリッド形式によるワークショップ実施した。今年度新たに作成した「医薬品アクセスと価格透明性」をテーマとした演習シナリオは、地政学的変化が顕在化したポストコロナ時代におけるグローバルヘルス外交の実際を体験するにあたり有用な教材であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して実施していく予定である。

E. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

参考資料

1. Global Health Diplomacy Workshop (2022): Course Schedule Overview (ワークショップ概要)

表1. Global Health Diplomacy Workshop (2022): Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 17 December 2022		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	Sign-in on zoom online	
9:00-9:30	Self-introduction and course objectives	Prof. Hiroyasu Iso (Japan)
9:30-10:15	*World Health Organization and its role in global health governance (lecture) *Q&A in Japanese	Prof. Hiroki Nakatani (Japan)
10:15-10:30	Break	
10:30-11:10	*Forming a national position: Japan's case (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Takashi Suzuki (Japan)
	*Intervention: dos and don'ts *Q&A in Japanese	Dr. Haruka Sakamoto (Japan)
11:10-11:50	*Recent trends and challenges in access to medicines and other health products in global health (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Daisuke Koga (Japan)
11:50-13:00	Lunch	
13:00-13:15	Briefing on role-play sessions	Dr. Tamami Umeda
13:15-14:15	Team deliberation (60 min)	Group facilitators
14:15-14:45	*Mock-up Session (Plenary #1) (30 min)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
14:45-15:15	Break for team deliberation and bilateral meetings as necessary (30 min)	Group facilitators
15:15-17:00	*Mock-up Session (Working Group #1) Break during the session (10 min)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons

Day 2, Sunday, 18 December 2022		
Time	Session Title	Speakers
9:30-9:40	Recap of Day 1	Dr. Eiko Saito
9:40-10:20	*G7 taskforce on 100 days mission to respond to future pandemic threats (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Osamu Kunii (GHIT, Japan)
10:20-10:30	Break	
10:30-11:30	*Introduction to negotiations (lecture) *Q&A in English	Prof. Suwit Wibulpolprasert Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
11:30-11:40	Break	
11:40-12:20	*Real-life negotiations: Case studies of difficult negotiations (lecture) *Q&A in Japanese/English	Dr. Satoshi Ezo (Japan)
12:20-13:30	Lunch	
13:30-14:40	Team deliberation	Group facilitators
14:40-15:00	Break	
15:00-15:45	*Mock-up Session (Working Group #2)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons
15:45-16:00	Break	
16:00-16:45	*Mock-up Session (Plenary #2)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:45-17:00	Wrap-up Feedback Survey Closing Remarks	Wrap-up (Dr. Umeda) Feedback Survey (Dr. Saito) Closing (Prof. Iso)

表2. 参加者/オブザーバー属性(回答アンケート)

		Number	Percent
Age range	20-29	6	42.9
	30-39	6	42.9
	40-49	1	7.1
	50-59	1	7.1
	60 and over	0	0
Sex	Male	3	21.4
	Female	11	78.6
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	2	14.3
	No experience	12	85.7

表3. 各セッション難易度(演習参加者 14 名のみ回答)

		Very Difficult	Difficult	Medium	Easy	Very Easy
Day 1	Team deliberation	14.3%	42.9%	42.9%	0%	0%
	Mock-up Session (Plenary #1)	28.6%	28.6%	35.7%	7.1%	0%
	Mock-up Session (Working group #1)	35.7%	35.7%	28.6%	0%	0%
Day 2	Mock-up Session (Working Group #2)	28.6%	28.6%	42.9%	0%	0%
	Mock-up Session (Plenary #2)	21.4%	21.4%	50.0%	7.1%	0%

表4. 各セッション参加度(演習参加者 14 名のみ回答)

		Weakly participated	Somewhat participated	Actively participated
Day 1	Team deliberation	14.3%	28.6%	57.1%
	Mock-up Session (Plenary #1)	14.3%	28.6%	57.1%
	Mock-up Session (Working group #1)	14.3%	28.6%	57.1%
Day 2	Mock-up Session (Working Group #2)	14.3%	28.6%	57.1%
	Mock-up Session (Plenary #2)	21.4%	35.7%	42.9%

表5. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから得られた気づきについて(自由回答)

コメント(自由回答)

時間の経過による心理的变化について

入念な準備(各国、本国からの情報収集)、瞬時の判断能力、国際会議における言い回し交渉力、論理性、語学力

広くカウンターパートの意見を収集し、まとめ、適切な伝えること。事前の準備が肝要であること

事前に相手国の立場や利益について分析を行い、譲歩可能な複数の妥協案を検討しておく

事前の関係者とのすり合わせや、妥協点の模索、言葉選び、実践経験等、複合的要素が重要である

適切な英語での言い回し、折衝、瞬時に切り返せる能力が圧倒的に不足していると痛感しました。

交渉に必要なことは普段からの準備をはじめ地道に経験を積むことが必要

日常の人間関係と同じように、国同士のやりとりであっても、何が互いの本当に求めるものであり、どこなら折り合えるのかを考えて行くことは非常に大切。きちんと折り合えない red line を引くことも必要だと思います。会議の場のみならず、インフォーマルなやりとり、根回しの重要性もわかりました。

参加国の背景を理解、配慮しつつも、強硬過ぎない範囲で適切に発言する

決議案等の文書の理解と議論での各国の発言からそれぞれの立場を理解することが重要。今回、文書の読み方、単語の意味等の基礎から発言方法、さらには議長という長期的な目指すさきもお示いただき、とても勉強になりました。今後の実務に直結する内容でした。

自国の立場のうち譲れない点は明確に示す必要があると学びました。また、mock-up session を通して、会議の合間に二国間や小さいグループで調整を試みることの重要性も感じられました。

表6. ワークショップ改善点(自由回答)

コメント(自由回答)
もう少し二国間ディスカッションの時間があればよかった フィードバックもたくさんいただけて、大満足です。
・決議案の中身について事前にポイントをチーム内で確認できる時間を取る(途中まで中身をよく理解できていないまま進んでいたため) ・可能であれば事前資料の送付をもう少し早くしていただけると嬉しいです(今回の送付は月曜日で、平日の夜になかなか予習の時間が取れなかったため) ・よく使うフレーズ(特に譲歩に使えるようなフレーズ群)について事前にリストをご共有いただけると、共通の土台で議論ができるため良かったと思います
初めに全員の自己紹介があると今後の人脈形成にも繋がるので、よりよい 資料を読み準備する時間があると助かる
少し時間が足りなかったのと立場に近い国が2国ずつあると良い
講義のスピードが少し早かったので、可能であれば、事前に資料をいただけるとより理解が深まる
宿題の資料を早めにいただけたらありがたかったです。できれば週末に読んで、もう少し内容を理解した上で研修に参加したかったです。
他のチームにも大変魅力的な参加者の方が多かったので、もし時間的に可能であれば全体で自己紹介を行う機会やアイスブレイクのような機会があっても良かった

表7. ワークショップ全体に関するコメント(自由回答)

コメント(自由回答)
チーム内でも発言時間をコントロールするルールがあると、良い。 休日にもかかわらず、お時間を割いていただき、貴重な教をたくさん共有くださり、ありがとうございました。今後も自己研鑽に励みたいと思います。
とても学びの多い2日間でした。誠にありがとうございました。 大変充実したプログラムでした。参加できたことは本当に幸運だったと思います。ありがとうございました
大変学びが多く、ぜひ引き続き研修等ご案内いただけると嬉しく思いました。 今回ほんとうに貴重な機会を頂き、先生方たいへんお忙しい中まことにありがとうございました。非常に贅沢で盛りだくさんの講義と実践、大変勉強になりました。また同業職種との繋がりもできありがたかったです。引き続きどうぞよろしくおねがいします。
自分に足りない事がわかるとともに今後の motivation が上がりました。お忙しい中大変有難うございました。 講義パートも非常にささる内容ばかりで、国際会議の場だけでなく、明日から使える知恵や知識、示唆をいただきました。また参加者の皆さんのロールプレイにも刺激を受け、叶うならば、参加してみたいと思いました。ありがとうございました。
とてもよい経験になりました。参加させていただき、ありがとうございました。 実務に直結する研修を、ありがとうございました。
こんなに充実した2日間のプログラムを、参加者は無料で受けることができるなんて、大変ありがたいことです。お休みの日にもかかわらず、多くの関係者の皆様に諸々ご準備いただきまして誠にありがとうございました。フォローアップ研修が開催されるのであれば、ぜひ参加させていただきたいです。
大変勉強になり、刺激的な2日間でした。 今後も、国際保健に関われる方法を模索していきたいと思ひます。

■ Speakers and Resource persons' list

Dr. Takashi Suzuki (Japan)
Senior Coordinator for Global Health, International Affairs Division, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

Dr. Daisuke Koga (Japan)
Division Director, Division of Planning and Management, Office of International Programs, Pharmaceuticals and Medical Devices Agency

Dr. Osamu Kunii (Japan)
CEO, Global Health Innovative Technology Fund

Dr. Suwit Wibulpolprasert (Thailand)
Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPP), Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand

Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
Deputy Consul-General, Royal Thai Consulate-General, Sydney

Dr. Satoshi Ezo (Japan)
Director, Global Health Strategy Division, Ministry of Foreign Affairs, Japan

Prof. Kazuaki Miyagishima (France)
Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan

Prof. Hiroyasu Iso (Japan)
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)

Prof. Hiroki Nakatani (Japan)
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM

Dr. Tamami Umeda (Japan)
Visiting researcher, iGHP, NCGM

Dr. Yuta Yokobori (Japan)
Assistant Director, Division of Partnership Development, Department of Global Network and Partnership, Bureau of International Health Cooperation, NCGM

Dr. Haruka Sakamoto (Japan)
Associate professor, Section of Global Health, Department of Hygiene and Public Health, Tokyo Women's Medical University

Dr. Mariko Hosozawa (Japan)
Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM

Dr. Eiko Saito (Japan)
Senior Research Fellow, iGHP, NCGM

*NCGM Secretariats will also participate to assist the operation during the workshop.